

コーディネーターとしての事業に対する意見シート

■事業名:まつさかファミリーサポートセンター

■コーディネーター氏名・所属:山本康史・ハローボランティア・ネットワークみえ

■ふりかえり会議開催年月日:平成 17 年 02 月 22 日

1. 協働のプロセスについて意見

民間側も行政側も、相手が自分とは異なる組織なんだ、という当たり前のことを理解して、互いの長所を出し合える様に配慮しながら取り組んでいる様に感じた。

そして、協働をしていく上で最も重要な担当者同士のコミュニケーションをとろう、という姿勢がどちらにもあり、課題が発生した際にも前向きに解決していつている様子をうかがうことができた。

2. 成果についての意見

事業そのものが終了したわけではないためチェックシートへの記述は少ないが、官の側も民の側も、現在の予算の継続する期間に縛られることなく、長期的に継続していくべき事業だと認識し、次のステップをイメージできている様に感じるので、大きな成果が上がっているのではないか。

3. 課題・改善の整理とまとめ

事業の継続性に対するイメージができているのとは裏腹に、(官側の)担当者が変わった場合の対応についてイメージができているとは言い難い。

現在、人材に支えられて前進している協働の取り組みを、継続していくための引き継ぎ事項の整理(協働内容の文章化やノウハウ伝承に向けた後続啓発の取り組みなど)も少しずつ考えていけば、協働による効果が長期的に期待できる様になるのではないか。

4. 事業全体についての意見・感想(自由に記入してください)

担当者が子育て支援という事業の本質を理解しやすい女性同士であったこともいい方向に作用しているのかもしれない。

お話を伺いながら、なかなか理解できない男性にどのように伝えればいいのか？と感じた。男性にも納得できるような切り口で事業を説明できる様になれば、もっと裾野が広がるかもしれない。

どのようなことでもいえることですが、異なる立場の人に自分の立場を理解してもらうためには、伝えたいことを相手の常識で理解できる筋立てに置き換えて伝えていく必要がある。自分が男性だからか、この事業の本質(一番のキモ)がどこにあるのか？ 今回のお話を伺う中では発見できなかったのが少し残念だった。

コーディネーターとしての事業に対する意見シート

■事業名: まつさかファミリーサポートセンター

■コーディネーター氏名・所属: 辻本晴美 (特)市民ネットワークすずかのぶどう

■ふりかえり会議開催年月日: 平成17年 2月22日

1. 協働のプロセスについて意見

協働がうまく運んでいったというふう感じた。行政、NPOともに当該事業が地域で必要とされていることに対するの共通認識がまずあり、スムーズに運んだのではないと思われる。行政からの情報提供が、適切に行われたこと、市民のニーズをNPOがきちんと把握していたことが、いい結果として表れたと思う。

また、事業遂行中のNPOも、週一回アドバイザーが集まって問題解決の努力をされ、行政の方からも、「思っていないことがたくさんあった。結果をだして、どうしたい」という呼びかけがあって、キャッチボールが出来た」との発言が聞かれ、事業の内容的にも人のつながりにおいても協働することの意味があった事業だと思う。

2. 成果についての意見

事業が継続中のため、双方の事業の成果に対する評価は「？」が多くなっているがひろく、子育て事業の支援のひとつとして地域に認知されてきているという福祉課の担当の方の認識や、具体的に地域の中での新しい関係性を構築するために出来るだけ近所に住む人同志を組み合わせる様に配慮されていることなど、地道な努力が、着実な成果を上げつつあると感じた。行政側と、市民側の協働という認識にあまりズレがないことも、成果をあげる大事な要因となっていると思う。

3. 課題・改善の整理とまとめ

事業実施者からの、資源の調達と役割分担の明確化が必要であるとのコメントがあり、協働のコストの分担が事業実施者に負担を強いているとの面もみられる。

地道な努力と継続が重要な事業であると思うので、今後、この点を両者で、充分話し合っていく必要があると思われる。事業の実施者側は、行政側の担当者が変わっても、システムとして変わらず機能してくれるようにという発言があった。また、任意の団体のときから、地域社会を作るのに役立つと考えて、子どもの向こうのお母さんの支援をすることで子育て支援をしてきたとの発言もあった。今後もファミリーサポートセンターの運営を今の団体での継続を考えているということであると受け取った。行政側は、ひとつの団体だけでなく、もっと多くの団体のかかわりを望んでいるように感じた。市民が広くかかわって、地域社会として子育て支援を確立していくのは、重要であるが、そのときに、今まで培ってこられたノウハウをどう伝えていく

のかが、優先課題となるとおもわれる。

4. 事業全体についての意見・感想(自由に記入してください)

出席者の方から「行政からNPOに委託するのは、これは、NPO支援としてやるのか？それとも入札時に一番効率がいいところに頼むのか→たまたまNPOが一番良かったから頼むとしたい。市民が望むなら、税金を払うつもりで、市民からの支援を得たい→あたりまえのこととして支援をしたい」という発言があり、協働の直接の担当の方からも、気を抜かないで広報をしたいという発言もあった。

協働においては、資金の提供も大きな資源の提供であるが広報の効果も大きいことが実感として捉えられていると感じた。

次にくる明るい地域社会のイメージがはっきりしているようで、楽しみです。